

## 第6学年 社会科学習指導案

### 1 小単元名 3人の武将と天下統一

### 2 小単元について

本小単元は、学習指導要領第6学年の内容(1)のオ「キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国について調べ、戦国の世が統一され、身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かること。」を受けて学習を行う。ここでは、16世紀戦国時代の群雄割拠の状態から、織田信長・豊臣秀吉が中心となって全国を統一し、その後徳川家康が江戸幕府を開いて政治を行った時期について、歴史的な事象を具体的に調べることを通して、戦国の世が統一され、身分制度が確立し、武士による政治が安定したことが分かるようにすることをねらいとしている。

東山文化の栄えた室町時代の中ごろに起こった応仁の乱によって、戦乱は日本全国に拡大し、「戦国時代」と呼ばれる時代となった。戦国大名とよばれる武将たちは、室町幕府の統制下に入らずに自分の領国を自治的に支配し、時には戦いによって領国を広げたり、当主を打ち倒したりするなど、争いの絶えない時代であった。そのような時代に織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の3人の武将の働きによって全国が急速に統一に向かっていく。その背景には、キリスト教や鉄砲の伝来に象徴されるように、古い時代の体制を崩し、新しい文化や考えが世に浸透していったことなどがあつた。

本単元では子供たちが意欲的に学習に取り組めるように、地域に残る史跡や歴史的な遺構、千葉県の戦国武将など、できるだけ歴史を身近に感じられる素材を活用して学習を進めていく。6年生の社会では、様々な小単元で地域の素材を活用してきた。例えば学区に残る貝塚を紹介したり、加曾利貝塚の見学をしたり、千葉市の始祖である千葉常胤を使って御恩と奉公を学習したりと、千葉に関わることを取り上げながら歴史学習を進めてきた。そこでは自分の住んでいる地域や、千葉県に歴史的なものがあることが分かると、歴史を身近に感じ、関心を持って学習に取り組む姿が多く見られた。地域の素材を使うことで、歴史的な事象を自分にとって関係のあることととらえ、意欲的に取り組むと考えられる。若松台小学区のすぐ近くを通る地域の幹線道路「御成街道」は、4年生の総合的な学習の時間で調べ学習を行っているが、その内容はほとんど忘れていたなど子供にとって地理的には身近であっても心理的には身近ではない地域素材である。そのような御成街道について改めてより深く学ぶことで、心理的にも身近に感じられるようにしたい。そして6年生の歴史学習として、地域の歴史にとどまらず、中央史の理解につながられるようにしていきたい。御成街道は徳川家康が東金に鷹狩りに行くことを目的に、佐倉藩主土井利勝が作った道である。船橋～東金間をほぼ一直線で結ぶ道路は、現在ほぼ当時のルートをもとに残している。豊臣氏との緊張が高まる1614年に行われた鷹狩りは、房州の諸大名の動向を探る情報収集の意味合いもあつたと考えられている。事実、この鷹狩りの数ヶ月後、関東地方最後の外様大名である里見氏が、西国大名とつながりの強かつた徳川の重臣大久保忠隣失脚に連座し、伯耆倉吉に転封となっている。徳川家康は、江戸幕府の体制を盤石なものにするため、親藩・譜代・外様大名の配置に細心の注意を払っていたことを、これらの事象から理解することができるだろう。このように子供たちに御成街道を身近に感じさせることで、主体的に学習に取り組むことが期待されるとともに、幕藩体制の確立に関わっていたことを理解することで、歴史的な事象を身近に感じたり、自分の暮らす地域への愛着につながったりするだろう。

### 3 知識の構造図

中心  
概念

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の活躍によって戦国の世が統一され、戦国の世が収まると、約 250 年続く江戸幕府による政治が始まった。⑨

まとめる

具体的知識

室町幕府が衰えると、戦国大名が自分の支配する土地に城を築き、たがいに勢力を争う戦国の世となり、戦いが全国で繰り広げられた。①

戦国大名は刀・弓矢・鉄砲などを使って戦った。織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の3人の武将の活躍で戦国の世が終わった。②

織田信長は、商業をさかんにし大量の鉄砲などの武器をそろえ、天下統一を目指して勢力を拡大した。また、キリスト教を保護し、仏教勢力と対抗した。③

豊臣秀吉は、織田信長の後を引き継いだ。最後は安房の里見氏などを味方につけて北条氏を滅ぼし、天下を統一した。また、北条氏に味方した千葉氏も滅亡した。④

豊臣秀吉は、大坂城を築き、検地と刀狩りによって武士と農民・町人の身分を区別した。また、二度朝鮮へ出兵したが、失敗に終わった。⑤

徳川家康は、関ヶ原の戦いで自分に反対する大名を破り、征夷大將軍に任じられて江戸に幕府を開いた。やがて豊臣氏を滅ぼした。⑥

徳川家康は、御成街道で房州の情報を集めた。その後外様大名の安房里見氏を遠くに配置するなど大名の配置を工夫して、幕府による支配体制を整えた。⑦⑧(本時)

- ・戦国大名・里見氏
- ・小田原城・北条氏
- ・千葉氏

- ・鉄砲
- ・織田信長
- ・豊臣秀吉
- ・徳川家康

- ・安土城
- ・楽市楽座
- ・キリスト教
- ・南蛮貿易

- ・天下統一

- ・大坂城
- ・検地
- ・刀狩
- ・朝鮮出兵

- ・関ヶ原の戦い
- ・江戸城
- ・江戸幕府
- ・大坂の陣

- ・親藩
- ・譜代
- ・外様
- ・御成街道

用語・語句

学習の  
過程

つかむ

調べる

#### 4 小単元の目標

- キリスト教の伝来、天下統一、江戸幕府の始まりと、それらにかかわる織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の働きや代表的な文化遺産を通して、戦国の世が統一されたことがわかるとともに、それらにかかわる人物の願いや働き、文化遺産の意味を考えようとする。
- 戦国の世が織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の3人の武将によって統一されたことから学習問題を見だし、3人の武将の業績の年表などから学習計画を立て、文化財、地図や年表、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の願いや働き、代表的な文化遺産の意味について思考・判断したことを適切に表現する。

#### 5 小単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
社会的事象への 関心・意欲・態度	戦国の世が統一されたことと、それにかかわる3人の武将の働きや代表的な文化遺産に関心をもち、進んで調べようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	調べたことを比較したり、関連付けたり総合したりして、3人の武将の願いや働き、代表的な文化遺産の意味を考え、適切に表現している。
観察・資料活用の技能	文化財、地図や年表、その他の資料を活用して、戦国の世が統一されるまでの様子と、それにかかわる3人の武将の働きや代表的な文化遺産について必要な情報を集め、読み取っている。
社会的事象についての 知識・理解	織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の3人の武将の働きによって、戦国の世が統一されたことがわかっている。

#### 6 小単元の指導計画

過程	時間	主な学習活動と内容
つ か む	1	○各地の戦国大名が領地を治める群雄割拠の時代であったことをつかむ。 ・16世紀の大名配置図から当時の様子を読み取る。 ・有力な戦国大名のエピソードを調べる。 ・千葉県は、小田原城を本拠地とする北条氏や館山城を本拠地とする里見氏が支配していたこと、千葉氏は北条氏の武将として仕えていたことを調べる。
	1	○わかったことや疑問に思ったことをもとに学習問題をつくる。 ・「長篠合戦図屏風」から、戦国時代の戦の様子を読み取る。 ・「江戸図屏風」から、約50年で平和な世の中になったことを読み取る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">㊦ 戦いの多い戦国の世の中は、どのようにして平和な世の中になったのだろうか。</div> ○学習問題に対する予想を出し合い、予想をもとに、学習計画をたてる。 ・織田信長が領地を拡大させていった。 ・豊臣秀吉が全国を統一して、安定した世の中を作った。 ・徳川家康が新しい幕府を作って新しい政治をはじめた。
調	1	○織田信長がどのように勢力を拡大したのかを調べる。 ・京都に近い安土に城を築き、拠点とした。

べ る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽市・楽座を行い、今までの仕組みを改め、商業や工業をさかんにした。</li> <li>・ 豊富な資金をもとに、大量の鉄砲などの武器で室町幕府や有力な大名を倒した。</li> <li>・ キリスト教を保護し、南蛮貿易でヨーロッパの文化を取り入れた。</li> </ul>
	1	<p>○豊臣秀吉がどのように全国を統一したのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 信長に背いた明智光秀を倒し、信長の後を引き継いだ。</li> <li>・ 全国の大名を引き連れて小田原城を包囲し、北条氏を滅ぼして天下統一を成し遂げた。</li> <li>・ 千葉常胤の末裔の千葉氏は北条氏とともに滅んだ。また、安房を本拠地とした里見氏は秀吉に従って小田原攻めに参加した。</li> </ul>
	1	<p>○豊臣秀吉がどのように日本を治めようとしたかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大坂城を築いて政治の拠点とした。</li> <li>・ 検地により、収入を確かなものにした。</li> <li>・ 刀狩により、百姓が武器をとって反抗できないようにした。</li> <li>・ 朝鮮に大軍を送ったが失敗した。</li> </ul>
	1	<p>○徳川家康がどのようにして天下を統一したのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秀吉の死後、多くの大名を味方につけて勢力を強め、関ヶ原の戦いで対立する大名を破った。</li> <li>・ 朝廷から征夷大將軍に任じられ、江戸に幕府を開いた。</li> <li>・ 大坂の役で豊臣氏を滅ぼした。</li> </ul>
	2 (本時)	<p>○徳川家康がどのように江戸幕府を安定させようとしたかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 御成街道を作って、鷹狩を名目に千葉の大名の動向を探った。</li> <li>・ 関ヶ原の戦いから家康に従った外様大名の安房里見氏は、伯耆倉吉（鳥取）に国替えを命じられ、後に滅んだ。</li> <li>・ 親藩・譜代大名は江戸の近くに、外様大名は江戸から遠くへ配置することによって、江戸幕府の体制を安定させようとした。</li> </ul>
ま と め る	1	<p>○3人の武将が天下統一のために果たした役割を考察して表彰状を作り、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 織田信長が、古い体制を壊して、新しい世の中を作ろうとした。全国統一の道半ばであったが、領土を拡大した。</li> <li>・ 豊臣秀吉は織田信長の後を受け継ぎ、天下統一を成し遂げた。検地や刀狩で、税制を安定させ、身分制度を確立させるなど、安定した世の中の基礎を作った。</li> <li>・ 徳川家康は江戸幕府を開き、約 250 年間続く平和な世の中をつくるための体制づくりを行った。</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>㊦ 戦いの多い戦国の世が、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の活躍によって天下統一された。戦国の世が収まると、徳川家康によって開かれた江戸幕府による政治が始まった。</p> </div>

## 7 市教研社会科研究主題解明のための方策

変貌する未来を切り拓く社会科学習  
～手応えの発見につながる『深い学び』の探求～

<本年度主題解明のための視点>

- 【研究内容1】「深い学び」に導く単元づくり
- 【研究内容2】社会的な見方・考え方をはたらかせる学習過程の工夫

本単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導に取り組んでいきたい。

【研究内容1】「深い学び」に導く単元づくり

○千葉の戦国時代の様子から歴史を身近に感じさせる、地域素材の活用。

戦国時代は戦国大名が領国を支配し、領土を拡張したり、大きな勢力を持つ戦国大名の配下になったり、周りの国と同盟を結んだり、下克上によって家臣に裏切られたりする、混沌とした時代であった。そのような時代背景を理解するために、千葉常胤の末裔である千葉氏、館山城を拠点として活躍した里見氏について地図や年表をつかって調べる。年表で県内のよく知っている地名が登場したり、地図で現在の若松台のある辺りを意識しながら関東の勢力図を調べたりすることによって、戦国大名の支配する地域が目まぐるしく変化する様子を、具体的にイメージしやすくなると考えた。また、3人の武将と千葉の戦国大名がどのように関わっていったのかを調べることで、千葉県の歴史と中央の歴史がつながっていることを実感することができ、意欲的に学習に取り組めるようになるだろうと考えた。

【研究内容2】社会的な見方・考え方をはたらかせる学習過程の工夫

○地域の歴史を、日本の中央史につなげて理解を深めさせる、地域素材の使い方。

まず、子供たちの生活圏にある御成街道を調べて理解したい。近くにあっても実体のわからないものを調べることによって、徳川家康と御成街道の関わりを理解し、自分たちの暮らす地域に対する見方を変えたい。よく知っている近所の御成街道を、かつて天下人徳川家康が通ったことを知り、具体的に鷹狩に行く様子をイメージすることで、歴史を身近に感じたり御成街道に関心を持ったりすることにつながるだろう。御成街道と徳川家康、里見氏を結びつける事象を、より具体的にイメージして、里見氏をどう扱ったのかという課題意識を持ち、主体的に学習に取り組めるようにしたい。

ここで注意すべきは、御成街道の学習で終わってしまわないこと、言い換えれば地域の歴史を学習することで終わりにしない、ということである。6年生の社会科として、あくまで地域の歴史は子供たちを主体的に学ばせるための入口であり、本当に理解すべきは中央史なのである。そのために、御成街道で鷹狩をした主な理由は、里見氏の動向を探ることだったことに気づかせる。そしてその後里見氏が伯耆倉吉（鳥取）に転封させられることを調べる。この地域史を中央史につなげるために、この里見氏に起こった出来事は他の外様大名でも当てはまるのかを投げかけて、調べ学習を行う。それにより、千葉で起こった事象を全国的な事象と比べることで共通点を見つけ、地域の事象を一般化することができるだろう。こうすることで、徳川家康が全国的に大名の配置を工夫することで政治を安定させようとしたことへの理解を深めることができると考えた。

## 8 本時の指導

### (1) 本時の目標

○徳川家康が御成街道を利用して情報を集めたり大名の配置を工夫したりしたことについて、江戸幕府を安定させる目的と関連付けて表現する。【思考・判断・表現】

### (2) 本時の展開 (8 / 9)

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
3	1 大坂の役直前の関東地方の大名の配置を調べる。 ・親藩・譜代大名がほとんどだ。 ・安房里見氏だけが外様大名だ。	○外様・親藩・譜代大名の違いを説明する。	・1613年ころの関東の大名配置図
5	2 御成街道は里見氏の動向を探るために作られたことに気付く。 ・里見氏の情報を得る目的があった。	○鷹狩りの目的を想起させ、家康は資料中の里見氏を警戒していたことに気付かせる。	
2	3 学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">徳川家康は、里見氏をどのように扱ったのだろうか。</div>		
13	4 徳川家康は里見氏をどうしたのか予想し、話し合う。 ・源頼朝のように、褒美や領地を与えて味方にしたのではないか。 ・裏切られる可能性があるから、遠くへ追いやるのではないか。	○3～5人の小グループを作り、グループ内で根拠を示しながら話し合わせる。 ○根拠の示せない子は、友だちの意見を参考にして作って良いことを助言する。	・里見氏の年表(揭示物)
5	5 徳川家康は里見氏を伯耆倉吉(鳥取)に転封したことを調べる。 ・里見氏は外様大名で信用されていないから、江戸から遠くへ追いやられてしまった。	○探するのが難しい子には、外様大名に注目して探すよう、助言する。 ○日本全体ではどうだったのか、一般化して考えるよう、投げかける。	・江戸時代初期の大名配置図
12	6 江戸時代初期における日本全体の大名の配置について話し合う。 ・外様大名は信用されていないから江戸から遠くに配置されている。 ・譜代大名・親藩大名は裏切られる可能性が低いので、江戸の近くにいる者が多い。	○このような配置にした理由について、江戸幕府の体制を整えたい家康の思いと関連付けて考えさせる。 ◆徳川家康が、江戸幕府の体制を安定させるために、大名の配置を工夫したことをノートに書いている。【思考・判断・表現】	
5	7 本時の学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">徳川家康は、江戸幕府を安定させて争いを起こさせないために、里見氏のような外様大名を遠くに配置するなどの工夫をした。</div>		

